

横浜市立すみれが丘小学校 平成29年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

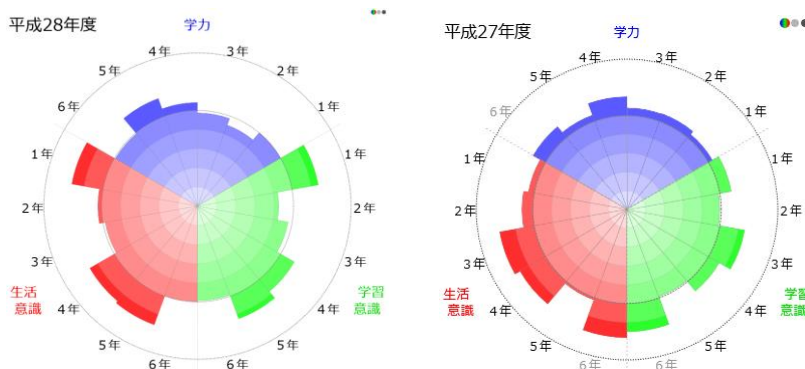
- (1) 本年度42周年を迎える古くからの落ち着いた住宅地である。保護者・地域の方は学校に協力的である。
- (2) 高学年に上がるほど、学習内容の理解力が高まる集団が多い。学校の学習で得た力だけではない要素が考えられる。
- (3) 素直で前向きに取り組む子が多いが、自分から進んで動くことは苦手な子が多い。

2 今後の方向（中期学校経営方針）

(2) 学力向上に関する指導の目標・方針（平成29年度末の姿）

- 友達とかかわり合って、互いの考えを認め合うことを通して自分の考えを表現できるように指導する。
- 学習スタンダードに基づき、誰もがわかりやすく参加しやすい学習の充実を工夫する。
- 重点研究をはじめとする研究・研修時間を確保し、研究・研修の内容を充実させる。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成28年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

学年により違いもみられるが、学習意識、生活意識ともにほぼ市の平均並であることが伺える。

大切なことを聞き取って自分考えをもち、それを相手に正確伝える力が定着していないので育てたい。

(2) 教科学習の状況

- 学年によって違いはあるが、ほとんどの教科でも市の平均に比べ正答率が上回っている。
- どの教科もほぼ市の平均を上回っているが、内容によっては定着が不十分と思われるものも各学年に見られるので、29年度での学習で補っていく必要がある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

全体的には高い水準を維持し、多くの教科で全市の平均を上回っている。引き続き、基礎・基本の確実な定着を重視し、指導の充実を図り、学力向上を目指していく。

学習に対する子どもたちの意欲は高く、人とかかわって学習することが好きである。一方で、自信をもって発表したり、意見を交換したりすることが苦手だと感じている児童が少なくない。基礎・基本の定着が不十分であったり、そこから自信をもって活動に取り組めなかったりする場合など、個に寄り添いながら授業改善を目指していきたい。

達成感や認め合う経験の積み重ねが、高学年になるに連れて自己肯定感の高まりにつながっていると考えられる。互いに認め合い、学び合っていく活動を重点的に取り組んでいく。

4 平成29年度 目標と具体的方策

平成29年度 目標

基礎・基本の定着に重点を置くとともに、「学び合い」を重視した授業を取り入れ、主体的に問題解決していく中で思考力・判断力の育成を目指す。

(1) 学校組織としての共通の取組

☆「学び合い」の充実

- ① 全学級で「学習スタンダード」と「問題解決」を意識した授業展開を図るとともに、スキルタイム、家庭学習による基礎・基本の定着と授業改善による思考力、判断力、表現力の向上を目指す。
- ② 重点研究では、図画工作科・道徳科の指導を通して、友達とかかわり合っ、お互いの考えを認め合い、自分の考えを表現できる児童の資質・能力を育む。

(2) 学年・教科等としての取組

個別支援学級

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、発達段階に応じた適切な表現手段を積極的に活用する場面を設けるようにし、自分の考えや表現に自信をもてるようにする。
- 子どもの発達段階に応じて、各学年の取り組みを参考にし、必要な取り組みを行うようにする。
- 主に生活単元学習において、課題意識をもって学習に取り組めるような学習展開となるように単元構成を工夫する。

1 学年

- 課題意識をもって学習に取り組めるような学習展開となるように単元構成を工夫する。
- 自分の考えや表現に自信をもつと共に、友達の表現の良さを認め合う態度を育てる。
- 目的意識・相手意識をもって、自分から表現できるような場면을学習に位置付ける。

2 学年

- 課題意識をもって学習に取り組めるような学習展開となるように単元構成を工夫する。
- 自分の考えや表現に自信をもつと共に、友達と互いの表現の良さを認め合おうとする態度を育てる。
- 目的意識・相手意識をもって、主体的に表現することができるような場면을学習に位置付ける。

3 学年

- 課題意識をもって学習に取り組めるような学習展開となるように単元構成を工夫する。
- 「学び合い」を効果的に行うために、自分の考えを表現し、友達の表現の良さに気付き、認めたいこうとする態度を育てる。
- 「問題解決」のための目的意識や相手意識をもって、主体的に表現をすることを意識できるような場면을学習に位置付ける。

4 学年

- 課題意識をもって学習に取り組めるような学習展開となるように単元構成を工夫する。
- 「学び合い」を効果的に行うために、自分の考えや表現に自信をもち、友達の表現の良さに気付き、受け入れていこうとする態度を育てる。
- 「問題解決」のための目的意識や相手意識をもって、主体的に表現を工夫することを意識できるような場면을学習に位置付ける。

5 学年

- 課題意識をもって学習に取り組めるような学習展開となるように単元構成を工夫する。
- 自分の考えや表現に自信をもつと共に、友達の表現の良さに気付き、見方・考え方から学びとっていかうとする態度を育てる。
- 目的意識・相手意識をもって分かりやすく表現することを意識できるような場면을学習に位置付ける。

6 学年

- 課題意識をもって学習に取り組めるような学習展開となるように単元構成を工夫する。
- 自分の考えや表現に自信をもつと共に、友達の表現の良さに気付き、見方・考え方から学びとったことを自分自身に生かそうとする態度を育てる。
- 目的意識・相手意識をもって分かりやすく、効果的に表現することを意識できるような場면을学習に位置付ける。